



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

日本臨床衛生検査技師会

発行責任者 小崎繁昭

編集責任者 高田欽也・金子健史・富永博夫
水井正樹・大高正壽

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号

TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722

ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

平成19年度



全国都道府県会長連絡会議

去る 11 月 17 日 (土) 日本臨床検査技師会館において、平成 19 年度都道府県会長連絡会議が開催された。会長連絡会議をこの時期に開催する意味は大きい。それは、平成 19 年度事業の進捗状況の報告に加え平成 20 年度事業の企画立案に向けて、各県からの提案・要望を聞くことにある。更に、平成 20 年度予算編成に反映させ、次年度の事業をスムーズに遂行させるというものである。

当日は、会議の前に、7 月 16 日に起きた「中越沖地震」で被災された会員に全国から寄せられた義援金 300 万円を新潟県臨床検査技師会 (会長：松田和博) に寄託するセレモニーが行われた。

◇平成 19 年度上半期事業報告

平成 19 年度事業についてはほぼ 100%の遂行となっている。特に今年度は健康展など、国民に向けた事業を多く計画したことから、各県の協力を得なければなりませんでしたが、協力を得てスムーズに事業展開がなされている。また 12 月には、1600 回に上る街頭でのオーロラビジョンを使つてのエイズストップ作戦をおこないますが、この様に国民に向けた、臨床検査の啓蒙活動を通して臨床検査技師をアピールしていきたい。2 月は法人化 45 周年式典を開催する予定としている。

1. 日臨技データ標準化事業

精度保障事業部より説明、報告がなされた。目的は標準物質を使用することで、正確で精密な検査データを提供し、国内のみならず国際的に正しい検査結果を提供する。次年度から行われる特定健診を受診される約 2000 万人の国民の検査データを長期に渡り保証することである。43 技師会 147 基幹施設を対象として、①対象項目は、特定健診項目、標準物質が整備されている、測定頻度が高いなど 29 項目を対象とする②標準物質を用いた正確さの確認 (7 月) ③基幹施設と地域内参加施設における正確さの確認と精度維持 (8~12 月) ④全国の検査室精度と検査室間精度の把握と維持管理の手順で行う。

②では TG, AMY, HDL-C など若干の偏りやバラツキを認めたので、原因を調査する。その他は正確さ・施設間差ともほぼ満足な状況である。今後 3 年間継続して行い終了としたい。

2. 全国輸血研修会

法改正記念事業として全国輸血研修会 (東京都)、47 都道府県での開催を行った。本年度で一応事業を終了。

3. 認定事業

日臨技認定センター所管の認定事業は、①認定一般検査技師制度は現在 151 名が合格②認定心電図検査技師③認定染色体・遺伝子検査技師は現在、第 1 回試験を行っている。また、認定に関する研修会①POCT 研修会②CRC 研修会③NST 研修会を開催した。

<質疑>

質問：データ標準化の 3 年後は？

回答：年でレベルが達すればあとは維持していく方向の事業をしていけば良い。

質問：データが標準化されても基準値がバラバラではどうなのか？

回答：それも合わせて標準化を考えている。

質問：機種間差、メーカー差について？

回答：標準化はメーカーと一体となって進めていかなければならない。

次ページへ続く・・・

- P01 全国都道府県会長連絡会議-1
- P02 同-2・JIMTEF 研修終わる・洞爺湖サミット
- P03 第 1 回認定心電検査技師認定試験・厚生労働大臣面談
- P04 第 2 回超音波技術研修会・投稿：「医療関係業務について」
- P05 地区短信・Oh!脳
- P06 地区学会便り-1

- P07 地区学会便り-2
- P08 資料：文書化(第2回)「分冊と参照」-1
- P09 同-2・ひとくち英会話
- P10 理事行動・編集室雑感<そんなの関係ねえ>
- P11 JAMT 共済ネット NEWS
- P12 臨床検査技師賠償責任保険